

論文の内容の要旨

論文題名

Increased expression of human herpes virus 6 receptor CD134/OX40 in skin lesions of patients with drug-induced hypersensitivity syndrome/drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms (薬剤性過敏症候群患者の皮膚病変部におけるヒトヘルペスウイルス-6細胞受容体マーカーCD134/OX40の発現亢進)

掲載雑誌名

The Journal of Dermatology

doi: 10.1111/1346-8138.16575. Online ahead of print 2022年掲載

医学研究科病理系薬理学(医科薬理学分野)専攻 博士課程 李 殷先

内容要旨

【背景・目的】

Drug-induced hypersensitivity syndrome (DIHS)の皮膚病変部に浸潤するCD4+細胞におけるhuman herpes virus-6 (HHV-6)受容体CD134の発現を検討し、DIHSの病態形成におけるHHV-6再活性化の意義を明らかにする事を目的とした。

【方法】過去21年間の生検皮膚組織(DIHS 22例、多形紅斑(EM) 11例)を対象とし、免疫組織化学染色、蛍光抗体二重染色法によりCD4+細胞におけるCD134+細胞の割合(%)を定量化した。

【結果】

DIHSにおけるCD134+ CD4 T細胞割合(36.8% [61.8, 17.7])は、EM(7.9% [13.4, 3.9]; $p = 0.0083$)よりも有意に高かった。DIHS重症度スコアとCD134+ CD4 T細胞(%)の間には有意な相関があった($p = 0.0272$)。重症度スコア ≥ 4 の重症群(59.9% [112.4, 41.6])は重症度スコア < 4 の軽症または中等症群(22.4% [31.9, 6.2])よりもCD134+ CD4 T細胞(%)が有意に高かった($p = 0.0035$)。HHV-6の再活性化群は、非再活性化群よりCD134+ CD4 T細胞(%)が高かったが有意差はなかった。

【考察】DIHSの皮膚病変部ではCD4+細胞におけるHHV-6感染への感受性亢進があり、HHV-6の病態形成への関与が示唆された。